

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成30年11月29日 (2018.11.29)

【公開番号】特開2017-81234(P2017-81234A)

【公開日】平成29年5月18日 (2017.5.18)

【年通号数】公開・登録公報2017-018

【出願番号】特願2015-208889(P2015-208889)

【国際特許分類】

B 6 3 H 21/20 (2006.01)

B 6 3 J 3/02 (2006.01)

B 6 3 H 21/38 (2006.01)

B 6 3 H 21/17 (2006.01)

B 6 3 H 23/12 (2006.01)

H 0 2 K 7/116 (2006.01)

F 1 6 H 57/04 (2010.01)

F 1 6 H 1/06 (2006.01)

【F I】

B 6 3 H 21/20

B 6 3 J 3/02 Z

B 6 3 H 21/38 A

B 6 3 H 21/38 Z

B 6 3 H 21/17

B 6 3 H 23/12

H 0 2 K 7/116

F 1 6 H 57/04 E

F 1 6 H 57/04 G

F 1 6 H 57/04 J

F 1 6 H 1/06

【手続補正書】

【提出日】平成30年10月17日 (2018.10.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 4】

前記冷却剤ポンプは、第 1 冷却剤供給ラインを通じて前記電気回転機械に冷却剤を供給するとともに、第 2 冷却剤供給ラインを通じて熱交換器に冷却剤を供給し、

前記熱交換器は、前記潤滑油ポンプに吸入される潤滑油または前記潤滑油ポンプから吐出される潤滑油と前記冷却剤との熱交換によって潤滑油を冷却する、請求項 3 に記載の船用減速装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

本実施形態では、入力軸 4 0 が、入力ギヤ 5 1 が設けられる前部 4 2 と、ギヤボックス

3を貫通する後部4 1とに分割されている。入力軸4 0の後部4 1と前部4 2とは、クラッチ2 1を介して連結されている。ただし、入力軸4 0が一体物であり、入力軸4 0がギヤボックス3の外側でクラッチ2 1を介してエンジン1 1の出力軸1 2と連結されているもよい。

【**手続補正3**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0 0 1 9

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【0 0 1 9】

ギヤボックス3には、入力軸4 0の後部4 1を回転可能に支持する軸受6 1および入力軸4 0の前部4 2を回転可能に支持する軸受6 2が支持されている。また、ギヤボックス3には、出力軸4 3を回転可能に支持する軸受6 3（本発明の第1軸受に相当）も支持されている。

【**手続補正4**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0 0 2 1

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【0 0 2 1】

潤滑油ポンプ1 5および冷却剤ポンプ1 6は、入力軸4 0により駆動される。より詳しくは、入力軸4 0の前部4 2には、駆動ギヤ5 2が設けられており、潤滑油ポンプ1 5および冷却剤ポンプ1 6の回転軸にはそれぞれ従動ギヤ5 3，5 4が設けられている。駆動ギヤ5 2と従動ギヤ5 3，5 4とは、直接的に噛み合ってもよいし、別のギヤ（1つまたは複数）を介して噛み合ってもよい。駆動ギヤ5 2および従動ギヤ5 3，5 4もギヤボックス3に収容されている。潤滑油ポンプ1 5および冷却剤ポンプ1 6の役割については後述する。

【**手続補正5**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0 0 3 7

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【0 0 3 7】

熱交換器1 8は、第2冷却剤供給ライン9 3から流入する冷却剤と第1吸入ライン8 2から流入する潤滑油との熱交換によって、潤滑油ポンプ1 5に吸入される潤滑油を冷却する。熱交換器1 8から流出する冷却剤は、排出ライン9 5を通じてエンジンルーム外へ排出される。ただし、熱交換器1 8が潤滑油ポンプ1 5の下流側に配置されていて、潤滑油ポンプ1 5から吐出される潤滑油が熱交換器1 8によって冷却されてもよい。